

リニア冊子をめぐり監査請求

「リニア・市民ネット山梨」と住民は、山梨県リニア環境未来都市推進室が作成した、リニア新幹線の開業による、未来の山梨を描く小冊子の回収を求め、4月17日、県に住民監査請求を行った。

この小冊子『リニアで変わるやまなしの姿』は、いかに生活が便利になり経済が活性化するかを、漫画によって羅列したもののだが、その根拠は不確かで、期待や願望が先行している。リニアを推進するための宣伝と印象操作の感が拭えない。

他方住民の生活被害やトンネル掘削による山間部の自然破壊、巨額の費用を必要とする財政の課題など都合の悪い負の側面には一切触れていない。請求者の一人、「リニア・市民ネット山梨」の川村晃生代表は「本来ならばリニア開業の被害やデメリットをどう克服するかを含んで政策が作られるべきだ。一方的な内容を是正してほしい」と、記者会見でリニア推進政策の是正を求め、請求理由を説明した。

冊子はすでに県内の公立、私立を問わず、小・中・高の学校に配布されているが、請求で、冊子のすべてを回収するか、または住民への影響を示した新たな冊子を同じ部数作成するように求めた。教育現場では通常、社会の問題で対立する意見がある場合、双方を紹介して考えさせるものだ。現場はこの冊子の配布をどう受け止めているのだろうか。（赤荻記）